

発進!! 「危機管理研究会」 —— 活動紹介 ——

1. 設立経緯

北海道技術士センター青年技術士協議会では、2003 年秋期研修会で「危機広報」を取り上げました。

その後、昨今の危機管理意識の高まりを受けて、この「危機管理」を継続テーマとして、我々青年技術士協議会が取り組んではどうかとの意見が多く寄せられました。そこで、青年技術士協議会初のテーマ別研究会として、2004 年(平成 16 年) 5 月、有志によって「危機管理研究会」を立ち上げることとなりました。

2. 設立目的

この危機管理研究会では、組織が抱える様々な“危機”に積極的に対処、指導できる人材の育成を目指します。また、危機時に情報交換できるヒューマンネットワークを構築するとともに、本研究会の活動を通じて技術士個々の可能性を探ることを主な目的としています。

3. 主な活動内容

- 有識者を招いて、危機管理に関わる勉強会や意見交換会を開催します。
- 危機管理の実務への応用力と検証力向上のため、個々にテーマと題材を選択し、レポートを作成し、ディスカッションを行います。
- 危機管理に関するレポートや勉強会の成果をとりまとめ、メーリングリストで情報共有します。
- 研究会の年間活動成果報告を作成します。

4. 参加方法

- 参加資格：北海道技術士センター青年技術士協議会の参加資格を有する方

○参加申し込み方法

以下のメールアドレスに申し込み願います。

- 申し込みメールアドレス：riskm-staff@freeml.com

○申込み記載事項：

以下の項目をご記入の上、お申し込みください。

- ①氏名
- ②所属名（会社名・部署名）
- ③メールアドレス
- ④電話番号、FAX 番号
- ⑤技術士登録部門
- ⑥生年月日

〈参考〉

- 現会員数 38 名

5. 活動紹介

◇第 1 回危機管理研究会—平成 16 年 6 月 16 日(水)
演題：「災害と道路—地域防災パートナーシップの構築に向けて—」

講師：北海道開発局建設部道路計画課長 高松 泰様



■主な講演内容

北海道開発局のみならず各方面で危機管理に関す

る講師をされている北海道開発局高松様から、主に道路防災を通じての経験談と危機管理の基礎的な考え方、地域防災への取り組み方などについて、ご講演を頂きました。

- ・災害の定義と危機管理の責任者、クライシス・マネジメントとリスク・マネジメント
- ・米国連邦危機管理庁（FEMA）の危機管理モデルと災害対応フェーズ、危機管理の体系
- ・災害時の情報伝達経路についての調査事例、クライシス・コミュニケーションのポイントなど

○参加者 18 名



◇第 2 回危機管理研究会—平成 16 年 8 月 27 日(金)
演題：「危機管理における広報の役割についての基礎、失敗例と成功例などの事例、学ぶべき教訓」

講師：㈱アイアールジャパン 田口淳子 様



■主な講演内容

クライシス・コミュニケーションの専門家であり、原子力防災研修「緊急時広報対応研修」講師の㈱アイアールジャパン田口様から、危機管理における広

報の役割についての基礎的な理論から、失敗例と成功例などの具体的事例、そしてこれらから学ぶべき教訓などについて、ご講演を頂きました。

1) 広報とは

- ・広報と広告との違い、企業活動における広報の位置付け

2) 危機管理における広報の役割

- ・組織のマネジメント機能として広報の果たすべき重要性
- ・情報の記録、伝達、共有

- ・危機管理におけるステークホルダースについて

3) 事例紹介と事例から得られる教訓について

- ・広報の失敗により、組織が危機に陥った事例や、逆に広報の成功により、危機対応がイメージアップにつながった事例などを紹介

○参加者 20 名

◆なお、活動内容の詳細は下記 URL をご覧下さい。

<http://219.97.233.12/seigikyo/risk/>

6. 事務局スタッフ

リーダー	天沼 宇雄
サブリーダー	正岡 久明
〃	古屋 温美
スタッフチーフ	丹治 和博
会計役	小澤 直正
コアスタッフ	飯野 将徳
〃	石川 健司
〃	奈良 照一
〃	松沢 勝
〃	米川 康

7. おわりに

本研究発表会は、青年技術士が「危機管理」という共通のテーマでコミュニケーションすることにより、新たなヒューマンネットワークを構築することが目的のひとつとなっております。是非気軽にご参加してください。研究会の後には意見交換会も行っております。

(文責：青年技術士協議会幹事 天沼 宇雄)